

救急活動のDX!! 命をつなぐ救急と医療の情報連携

～「傷病者情報共有システム」の運用を開始します～

近年、横浜市の救急活動にかかる時間(出場指令から医師への引き継ぎまでの時間)は延伸傾向にあります。また、今後の救急需要は高齢化の進展等により高い水準で推移することが見込まれます。

横浜市では、救急活動の円滑化等を目的として「救急活動のDX」を推進しており、このたび、救急隊が医療機関に傷病者の症状やバイタルサインなどの情報をデータ・画像で共有し、正確かつ効果的に伝達できる「傷病者情報共有システム」の構築が完成しましたので、全ての救急隊で運用を開始します。

システム導入によるメリット



傷病者情報の
正確な伝達



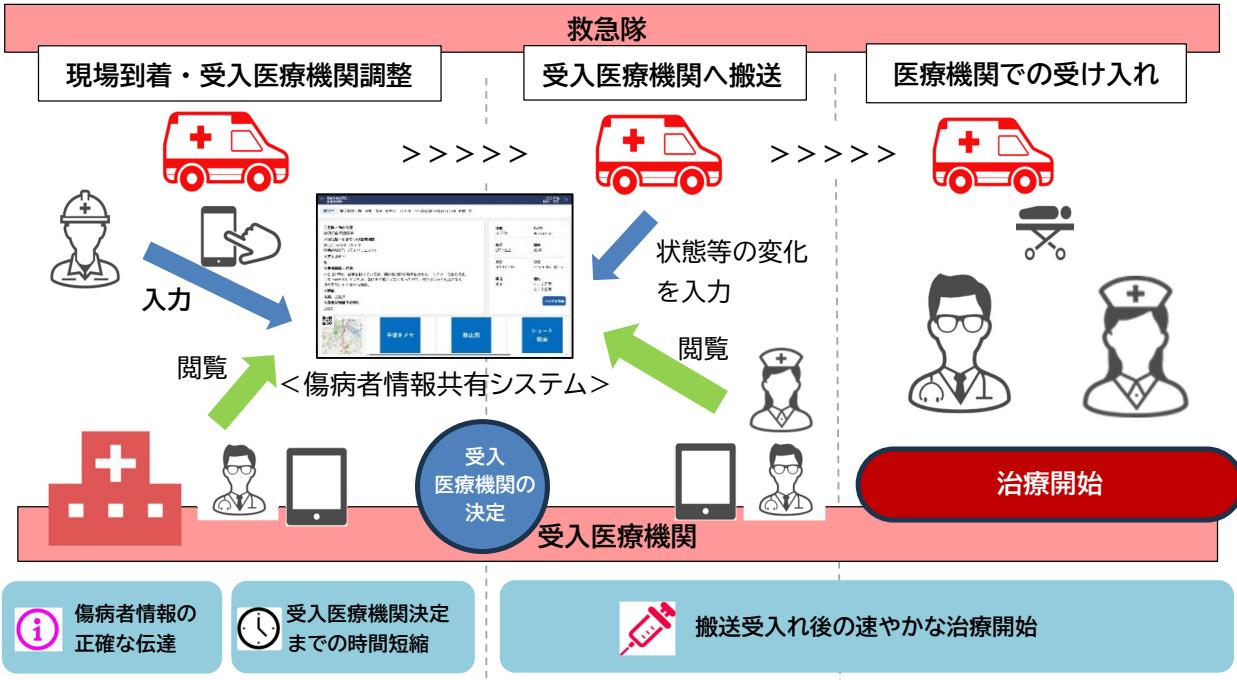
受入医療機関決定
までの時間短縮



搬送受入れ後の
速やかな治療開始

傷病者情報共有システムの概要

傷病者の症状、バイタルサイン※や負傷部位の状態等をデータ・画像で医療機関と共有



※バイタルサイン…体温、脈拍、呼吸及び血圧など、生命活動の状態を把握するための基本的な指標や測定値

運用開始日時(予定)

令和8年3月18日(水) 8時30分

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



システムの運用にあたり、市民の皆様へのお願い

次の内容について、御理解と御協力をお願ひいたします。

○救急隊員が救急活動中にタブレット端末やスマートフォンを操作します。
○氏名等を AI-OCR 機能※を利用してシステムに取り込むため、タブレット端末等のカメラによる本人確認書類の読み取りをお願いする場合があります。

○医療機関に正確な情報を伝えるため、負傷部位等の撮影をお願いする場合があります。

※AI-OCR 機能…AI を活用して紙や画像に含まれる文字情報を認識し、デジタルデータに変換する技術

【参考】救急隊について

○救急隊 全 90 隊(令和8年2月 13 日現在)

お問合せ先

(救急隊の活動、傷病者情報共有システムに関すること)

消防局救急企画課長 谷津 直樹 Tel 045-334-6771

(医療機関との連携に関すること)

医療局救急・災害医療課担当課長 濱井 俊充 Tel 045-671-4817



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

